

道連ニュース

2016年3月号 No.117

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

『第61回 通常総代会』 網走四地区 学校生活協同組合

雪解けも進む3月7日の総代会当日は足元が悪い中、総代、理事、監事そして来賓の皆様の出席を頂きました。御礼申し上げます。

本年度の総代会は選出総代100名中、出席総代40名と書面議決書合わせて合計86名となり総代会成立の報告後、議事に移りました。

事業報告の中では、自主供給高が3,321万円（前年比98.2%）、斡旋供給高が1億9,200万円（前年比80.1%）といずれも前年度を下回る厳しい報告となりました。そのほかの審議事項において子法人の決算概況や次年度の事業計画などが審議され全ての事項が承認されました。長引く景気低迷の影響による購買意欲の低下や児童生徒数の減少、学校数の減少、教職員の多忙化など学校生協を取り巻く環境は依然厳しさの一途を辿っています。これらの課題を受け止め将来展望を切り開いていくためには、今まで以上に心を合わせ一体となって教職員の皆様との信頼関係を深めていかなければなりません。私たち学校生協は長期的視点に立って学校生協運動に参加しやすい体制づくりと事業

内容の再構築、新しい分野への積極的な取り組みを進めていかなければなりません。網走四地区学校生活協同組合の特徴である学校訪問と対面販売を生かした商品提案、現物PRなどによる営業力・企画力の強化により多様化する組合員のニーズに答え継続的に魅力ある学校生協として前進しなければなりません。



全体の様子



理事長挨拶の様子

「税と社会保障を考える会」が発足しました

3月18日、道庁別館西棟におきまして、北海道商工団体連合会・北海道消費者協会・北海道生協連三者が呼び掛けました、「税と社会保障」を考える学習会が開かれ八団体からの参加があり、学習会の質疑応答の後、「税と社会保障を考える会」の規約が提案され満場一致で確認され、「税と社会保障を考える会」が発足しました。

学習会は、講師として適格消費者団体ホクネット理事長向田直範先生をお招きして「税と社会保障の現状と課題」のお話を60分頂き、その後参加者の意見交換がありました。

意見交換では、①逆進性の強い消費税の8%から10%への引き上げは、国民総生産の60%を占める、個人消費の一層の冷え込みを招くこと。世帯収入が下がり続け経済格差が広がり貧困化率が拡大・定着している一方で法人の内部留保額は史上最高額を更新しており、「税と社会保障」の総合的な見直しが必要な事などの発言がありました。

「税と社会保障を考える会」は、休眠状態にありま

した「大型間接税をかんがえる道民連絡会」の幹事団体であった三者北海道商工団体連合会・北海道消費者協会・北海道生協連がこの間意見交換し、組織の発展開祖を呼び掛ける事としたものです。

呼びかけに応じて参加表明を頂いた団体は、①北海道労働者福祉協議会②北海道民主医療機関協議会③農民運動北海道連合会④北海道農民連盟⑤北海道生活と健康を守る会連合会⑥北海道商工団体連合会⑦北海道生活協同組合連合会⑧北海道消費者協会、今後の運営については、「一致点に基づく行動の統一」を原則として進めることを確認しました。

「税と社会保障を考える会」の今後の活動をご期待ください。



講師 向田直範氏

さよなら原発・北海道集会報告

3月13日、札幌共済ホールで「さよなら原発1000万人アクション北海道」実行委員会の主催による原発事故から5年フクシマを忘れない「さよなら原発・北海道集会」が共済ホールに入りきれない人達(900人)の参加で開催されました。黙祷の後、主催者を代表して麻田信二(泊原発の廃炉をめざす会共同代表・北海道生活協同組合連合会会長理事)が挨拶をしました。麻田会長の挨拶が原発問題についてのこの間の経過、問題点、泊原発再稼働反対に向けて運動提起がすばらしかったので全文は、道連ホームページにアップしましたので、各会員生協の理事、職員、組合員さんにお知らせください。

小野有五(泊原発の廃炉をめざす会共同代表・北海道大学名誉教授)さんから「原発再稼働をめざす原子力規制委員会の問題点」のテーマで報告がありました。原子力規制委員会が島崎委員長から田中委員長に変更

後、ずさんになっていく原発の適合性審査、規制委員会の情報公開も減っていることもデータで示されました。

西尾正道(泊原発の廃炉をめざす共同代表・国立北海道がんセンター名誉院長)さんから放射線による内部被曝の危険性について隠匿していること、原発稼働中に出されているトリチウムの発がん性の危険性について指摘(道内の市町村の発ガン率1番は泊町・2番は岩内町)されました。

宍戸隆子(避難者自治組織「桜会」代表)さんは、(来年から避難者への生活支援がうちきられ、将来への生活設計が不安)と訴えていました。

集会終了後、参加者によるデモパレードを行い、歩行者へ「さよなら原発、泊原発再稼働反対」の訴えを行いました。

03. 13、「さようなら原発北海道集会」麻田会長報告

3月13日、札幌共済ホールに於いて、「さようなら原発北海道集会」が開かれ、道連麻田理事長が呼びかけ人として挨拶されましたので、内容をお知らせいたします。

皆さん、おはようございます。

ご紹介いただきました、北海道生協連の麻田です。主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。本日は、日曜日の朝にも関わらず、このように多くの皆さんにご参加いただきありがとうございます。

皆さんご承知のように、九州電力川内原発1号・2号機に続き、関西電力高浜原発3号・4号機が再稼働されましたが、4号機については、再稼働後緊急停止するトラブルとなり、また、大津地裁は3月9日、3・4号機の運転差し止めを関西電力に命じる仮処分を決定し、運転が停止されました。

皆さんご承知のように、原発は、1979年に米国のスリーマイル島、86年にソ連のチェルノブイリで重大事故が起きましたが、「日本は大丈夫」と言われました。しかし、5年前、メルトダウンの重大事故が起きました。

広島・長崎の原爆より倍以上の強い放射能がばら撒かれました。5年経っても福島では、10万人の人が故郷に戻れずいます。そして、いまだに、福島第一原発の事故原因がはっきりしていません。事故処理が終わる目途も立っていません。原発は「安全、安い、クリーン」という原発推進の3大スローガンは、全てうそだということがわかってきました。

また、使用済み核燃料核廃棄物の最終処分場も全く目途が立っていません。

それなのに、国は、世界で最も厳しい基準で審査され、その基準に適合していると認められたから、電力会社に原発の再稼働を認めています。原子力規制委員会は、審査基準に適合しているかどうかの審査であり、安全性の審査ではないという。責任の所在が全く明らかではありません。国民の大多数が再稼働に反対しているのに、全く無責任な形で、原発の再稼働が進んできました。

こうした中での大津地裁の決定でしたが、関西電力の対応の不十分さを指摘した「まともな判断」がなされたものです。これに力をいただいて、泊原発の再稼働は絶対に許さない。大間原発の建設も絶対に許さないとの運動の勝利に向けて前進しなければなりません。

皆さんご承知のように、北海道には、平成12年に創られた北海道条例第108号「北海道省エネルギー・新エネルギー

促進条例」があります。

条例の前文には、「原子力は、放射性廃棄物の処理及び処分の方法が確立されていないなどの問題があることから、過渡的なエネルギーと位置づけられる。」「私たちは、脱原発の視点に立って、限りある資源を可能な限り将来に引き継ぐとともに、北海道内で自立的に確保できる新しいエネルギーの利用を拡大する責務を有している。」とあります。

条例では、原発は、過渡的なエネルギーと位置付け、脱原発の視点に立っての新エネルギー利用を促進しようとするものです。

北海道は、この条例を遵守しなければなりませんし、トップにいる知事は、当然のこととして、道条例108号に従わなければなりません。この条例を口にすることはありません。

「安全、安い、クリーン」という原発推進の3大スローガンは、全てうそだということがわかってきたわけですから、北電に対して、泊原発を再稼働しないよう指導すべきだし、風力や地熱、太陽光、水力、バイオマスといった北海道に莫大な量のある資源を活用し、自然再生エネルギー産業を育て地域を元気にする施策を重点的に実施すべきです。そうすることで、北海道は、世界の中でも住んでよし、訪れてよしの素晴らしい場所になるのです。

また、原発を動かすということは、処分技術が確立されていない核廃棄物がどんどん貯まるということです。最終処分場は政府が場所を決めることとなりました。この北海道にと言われたらどうするのですか。処分場は拒否して、原発は動かす。そんな無責任なことは許されないのではないのでしょうか。

北海道の未来を考えれば考えるほど、北海道から原発をなくしなければなりません。泊原発の再稼働は絶対に認めることはできないのです。

北海道の発展に尽力した先人たちは、「北海道を東洋のデンマークに」という希望を持って活動しました。

デンマークは鉱山一つない資源の乏しい国ですが、痩せた大地に木を植えることから始めて世界一流の豊かな福祉国家となりました。いち早く原発を造らないことを決め、自然再生エネルギーで全てを賄おうとしています。

私たちは、泊原発の再稼働を決して許してはなりません。北欧の小国デンマークをモデルに、これからの人たちのために、自然に恵まれたこの美しい北海道の大地、安全で安心な食料を沢山育む大地を後世に遺そうではありませんか。皆さん共にごんぱりましょう。ありがとうございました。